

タバコの誤飲

Drink Tobacco by Mistake

タバコの誤飲(誤って飲み込むこと)は、ペットや幼児に最も起こりやすい事故のひとつです。特に仔犬は見るもの全てに興味を示し、噛んだり、舐めたりして認識しようとする習性があるためタバコ中毒の発生率も高くなります。タバコの誤飲による中毒はペットがタバコに含まれるニコチンを吸収することによって発生します。

時にはタバコを吸うというペットの話を目にしますが、その場合吸ったとしても0.5~2mg程のニコチンしか吸収されないといわれています。しかし、タバコを食べてしまうとタバコに含まれるニコチンが全て体内に吸収されるので問題となる可能性があります。

ニコチンの含有量は銘柄によっても様々ですが、通常1本のタバコには0.1~30mgのニコチン(葉巻:15~40mg、噛みタバコ:6~8mg/g、ニコチンガム:2~4mg、ニコチンパッチ:8.3~114 mg)が含まれています。またタバコの吸殻には総ニコチン含有量の約25%が含まれているといわれます。

原因

タバコやタバコの吸殻の誤飲による急性のニコチン中毒。犬のニコチン中毒量は10~100mgとの報告があります。体重にもよりますので一般的には体重1kgあたり11mg程度とされています。

参考までに人間の乳幼児の致死量はタバコ10~20mgで、本数にすると約0.5~1本程度と言われているので、小型犬などで同様の誤飲でも注意が必要だと思えます。

症状

通常、誤飲後15分~1時間以内に症状が出る事が多く、嘔吐や下痢、異常な興奮、震え、流涎(涎を垂らすこと)が一般的です。また、聴覚や視覚の幻覚症状などが見られるとされていますが動物でこれを確かめることはなかなか困難かもしれません。

誤飲後6時間経過しても症状が無ければ通常問題ありません。

診断法

問診や状況等から判断するしかありません。できれば飲んだタバコの銘柄などを知らせて頂ければ治療や診断に役立つと思います。

治療法

犬の場合、タバコを誤飲しても胃の強い刺激やニコチンによる刺激により嘔吐が起こります。それにより摂取したタバコが吐き出されれば大きな問題に発展すること少ないものです。

通常ニコチンは胃からは吸収されにくいのですが、小腸に至ると急激に吸収がすすみます。そのため小腸に到達する前に処置する必要があります。

治療はまず薬剤などにより吐かせる。次に胃洗浄を行い、点滴、吸着剤の投与などを行います。

自宅での看護法

獣医師の指事にしたいケアしてあげてください。大量摂取の場合、入院、集中治療が必要になります。

予防法

タバコの誤飲はあきらかに飼育者の不注意によるミスです。ペットや子供のいる家庭ではタバコを厳密に管理する必要があります。また、『タバコは百害あって一理なし』であることも覚えておいてください。

ちなみに当院では完全禁煙を行っており、スタッフも一貫して喫煙者は採用不可とさせて頂いております。

メモ

タバコを水に浸けると1時間で50~70%のニコチンが溶出するとされています。このためもしもタバコを飲み込んだ時に水や牛乳を飲ませるとかえってニコチンの吸収が早くなるため危険です。タバコの誤飲を発見したら素人療法を行わず、すみやかに動物病院を受診してください。

上述のようにタバコのニコチンは水に溶けやすい性質を持っています。ですから、タバコの誤飲よりも空き缶に水を入れて灰皿がわりにしたようなものに含まれるタバコの浸出液を飲んだときはより重篤な症状が出現する可能性がありますので早急な対処が必要です。



[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..